

ふくる通信

The Fukushima tourist information center communication

磐梯吾妻スカイライン

発行／福島市観光案内所
〒960-8031 福島県福島市栄町1-1
TEL 024-531-6428
FAX 024-531-8165
URL <http://www.f-kankou.jp>
こらんしょふくしま 検索
E-mail kankou@f-kankou.jp



ゆるやかな斜面一面が美しく彩られる。天狗の庭から吾妻小富士を望む。



浄土平ビジターセンター

ビジターセンターは、自然公園（国立・国定公園など）を訪れたみなさん（ビジター）に対して、公園の自然をわかりやすく展示・解説し、野外の自然とじかに接するきっかけをつくらせていただくための施設で、平成三年に建設され、平成二十九（二〇一七）年八月にリニューアルオープンを行いました。

館内には模型や映像、パネル写真、実物などを展示し、訪れた季節の花々や見どころ、散策の注意点などの情報が分かります。また、自然観察会、トレッキングなどの行事も随時行っています。

展示室では、散策・登山コースごとに見どころや成り立ち等をわかりやすく解説しており、また「森の本屋さん」の名で親しまれる売店もあり、ネイチャーグッズや本、オリジナル登山記念グッズなどを販売しています。



【開館期間】4月上旬～11月中旬
【開館時間】9:00～16:00
【休館日】11月中旬～4月上旬
【入館料】無料
【TEL】0242-64-2105



福島県浄土平レストハウス

磐梯吾妻スカイラインの中間地点、浄土平にある福島県でいちばん空に近い標高一、六〇〇mの天空のレストハウス。一階のショップ「アヴィスの森」ではふくしまの銘菓、全国新酒鑑評会で五年連続日本一のふくしまのお酒、県産食材を使用したこだわりの六次化商品、郷土玩具などを取り揃えております。一階フードコーナー「ノバ」では浄土平レストハウスオリジナルのソフトクリームや当地ハンバーガー、メンチカツなどお楽しみいただけます。また、二階レストラン「サペレ吾妻」では、レストハウス人気メニューの会津名物ソースカツ井やA5ランク福島牛のローストビーフ丼、川俣シャモのふわとろ親子丼など県産食材にこだわったメニューを提供しております。雄大な景色を眺めながらふくしまの「美味いもん」をお楽しみください。



【TEL】0242-64-2100
（冬期間 080-1856-9482）
【FAX】0242-64-2100
（冬期間 024-525-4097）
【E-mail】joudodaira@mopera.net
【営業期間】4月上旬～11月中旬
【営業時間】9:00～16:30



浄土平天文台

浄土平は磐梯朝日国立公園内の標高一、六〇〇mの高地に位置し、周辺の空気が清浄で光害も少ないことから、天文愛好家に好評なスターウォッチングポイントです。

直径五・五mの銀色に輝くドーム型の屋根が目印、ビジターセンターに隣接する施設が浄土平天文台で、日本一標高が高い場所にある天文台としても有名です。

口径四十cmのカセグレン式反射望遠鏡をはじめ太陽望遠鏡など設備が整っており、一階展示室には模型や隕石の展示、リアルタイムの太陽映像、アストロ犬チロ座像など、日中でも天文の知識を深めることができます。



【開館期間】4月上旬～11月中旬
【開館時間】10:00～17:00
【夜間開館】毎週水・土曜日（雨天・曇天中止）
（4月上旬～5月中旬・11月）休館
（5月中旬～5月末・9月・10月）19:00～21:00
（6月～8月）20:00～22:00
【臨時開館】観光イベント開催日及び大きな天文現象時
【休館日】毎週月曜日（但し月曜日が祝日の場合は開館し、その日以降の祝日でない日を休館日とする。）
【TEL】0242-64-2108（開館期間中）

春から秋

限られた時を大自然とともに楽しむ

磐梯吾妻スカイライン

磐梯吾妻スカイラインは高湯温泉と土湯峠を結ぶ、全長二・七kmの山岳道路。吾妻連峰を縫うように走るこの道は「日本の道一〇〇選」に選ばれるほど季節を通し、美しい景色や絶景を望むことができる福島市屈指の観光名所でもあります。カーブが続く道沿いには森林や草原、奇石が数多く点在し、大自然が織りなす美しい風景が次々と飛び込んできます。芥川賞作家の井上靖氏はその風景の素晴らしさを「日本」と称賛。人々の心にいつまでも残る八つの名勝に名前を付け「吾妻八景」を創り上げました。この八景に立つと自然の美しさや雄大さに圧倒され、人は自然の中では無力だと感じずにはいられません。

「雲の上を走る道」と表現される磐梯吾妻スカイライン。福島市街地から一時間三十分ほど車を走らせれば一気に標高一、六〇〇mの浄土平へ到達します。吾妻小富士、一切経山、樋沼、東吾妻山に囲まれた浄土平周辺は荒涼した大地が広がる一方、少し足を進めると高山植物や湿原が多く点在しています。可憐な花々と普段目にするにない植物たちが多く人々の目を楽しませています。

磐梯吾妻スカイラインが最もにぎわう季節は秋。県内屈指の紅葉の名所で黄色や赤に彩られた美しい絨毯が一眼二面に広がります。

春から秋と限られた季節にのみ大自然という大きな扉を開く磐梯吾妻スカイライン。昭和三十三年の開通以来、多くの人々を魅了し続けています。

今回は、磐梯吾妻スカイライン開通の歴史と吾妻山の魅力を辿って参ります。

「ふくる」とは…「福島に来る」と「福が来る」を掛け合わせた言葉です。福島市にお越しくださった皆さまに「福」が「来る」事を祈るとともに、福島市の魅力をたくさん知っていただきたいと思います。

小特集

磐梯吾妻スカイライン

福島県道七〇号福島吾妻
妻裏磐梯線、通称・磐梯吾妻スカイライン（以下スカイライン）は、福島市西方の高湯温泉と土湯峠を結ぶ、全長二・七kmの山岳道路。最高標高一、六二二m、平均標高一、三五〇mの吾妻連峰を縫うように走る道は、カーブを曲がるごとに変化に富んだ景色が展開し、まるで雲上の樂園を駆け抜けるようです。



磐梯吾妻スカイラインの先駆者たち

もともと吾妻山一帯は、山霊の宿る山として福島、会津地方の人々から崇拜されてきました。また、狩猟を行ったり、農耕や飲水に欠かせない大切な水を提供してくれる大事な場所として敬われていました。そのため、吾妻山の雄大な景観を、さらに多くの人に親しんでもらいたいという努力が続けられてきました。

スカイライン開通を夢見た男の一人に、吾妻山の麓にある微温湯温泉で旅館を経営していた二階堂伊蔵氏があります。伊蔵氏は明治八（一八七五）年信夫郡水保村（現福島市桜本）に生まれました。東吾妻地区の山道がほとんど整備されていないことを憂いた伊蔵氏は山中に入り、かつて修行者の往来していた道を大正から昭和初期にかけて、一人で修復しました。また、吾妻山の自然を大勢の人に紹介



したい思いで登山道の開拓を始めました。ともに同じ夢を持ち続けた米沢市出身の画家計見東山氏や水保村村長を務めた佐久間新七氏などとともに、大正七（一九一八）年には、私財を投げ出して吾妻山山中の自動車道開発を計画し、吾妻山の国立公園の指定も目指しました。そのときは自動車道の計画は実現されませんでした。伊蔵氏は磐梯吾妻有料道路（現スカイライン）開発の有効性を説いた先駆者となりました。

磐梯吾妻スカイラインの誕生

戦前から吾妻山の自然を多くの人に紹介したい



という活動が続けられ、終戦で荒廃した都市や、人々の心を癒した大自然である吾妻連峰は、昭和二十五（一九五〇）年に「磐梯朝日国立公園」に指定され、これを契機に吾妻山の山岳道路開通が具体性を帯びました。

昭和三十四（一九五九）年十一月五日に開通したスカイラインは、道路の最高標高一、六二二mを走る自動車道路として全国初、東北地方の山岳観光有料道路の草分けとして誕生しました。開通当日は秋晴れに恵まれ、関係者一、〇〇〇名、自動車二五〇台、バイク五〇台による大パレードが行われました。小説『故

旧忘れ得べき』で第一回芥川賞候補になった作家の高見順氏は「お世辞を抜きにして日本最大の景観です。私は各地の風景を見ているが、こんな雄大な眺望は初めてです。特に胸を打ったのは、浄土平の広大な高原の風景だった。いかにも東洋的景観で、わたしは中国大陸の砂漠にきたような気持ちになった。おそらく北海道にもこんな雄大な景観はないでしょう。映画のロケーションにはもってこいの場所だ。箱根の十国峠などとても足元にも及ばない。」（昭和三十四年十一月六日付福島民報新聞）と誉め称えました。

また開通式に先駆けて、福島民報新聞社が提唱した、大自然を広くアピールするための選定会が開かれ、スカイラインの絶景ポイントを芥川賞作家・井上靖氏が「吾妻八景（白樺の峰、つばくろ谷、天狗の庭、浄土平、双竜の辻、湖見峠、天風境、国見台）」と命名し、「日本二」と評しました。木々が生い茂る森、福島市街を眼下一面に見下ろすことができる深い谷と高い

橋、遠く磐梯山を囲むように位置する猪苗代湖、秋元湖、小野川湖、松原湖の四つの湖の眺め、そして火山が作り出した荒涼とした大地を有する吾妻八景は、現在でもスカイラインの見どころになっています。

車社会の到来と磐梯吾妻スカイライン

一九五〇年代後半になると、自動車が道路交通の主流になり、車社会の到来は、磐梯朝日国立公園を横断する「スカイライン」の開発にも繋がっていきます。吾妻山に自動車道を開削する計画は、福島県の福島土木事務所から始まりまし



た。県の都市計画課と土木事務所が調査を行い、現在のスカイラインの土湯ゲートである幕川温泉口と高湯ゲートがある高湯口から昭和二十六（一九五二）年に工事が開始されました。当時の計画では、幕川温泉までは林道を利用し佐原口旧硫黄運搬馬車道を修復するという粗末なものでしたが、その後昭和二十八（一九五三）年に、福島県及び地元民の熱意からこの事業が道路公団に引き継がれ、開削が加速しました。

日本のモータリゼーションが盛んになり、交通が鉄道から自動車の時代へ突入した「マイカーブーム」と、余暇

を利用して娯楽を楽しむ考えが普及した「レジャーブーム」が訪れたことにより、スカイラインにはマイカーや観光バスが押し寄せ、かつて修行者が行き来した浄土平ではハイヒールを履いた女性たちが壮観な景色を楽しみました。スカイラインは開通時に予想されていた赤字路線という懸念をはねのけ、毎年順調に交通量を増やしていききました。利用車が年間二十万台を越え、観光客で大いににぎわい、福島観光の収入源となりました。

娯楽としてのスカイラインの魅力とこれから

日本初である山岳道路の素晴らしい景観は、当時世間の注目を浴び、昭和三十五（一九六〇）年七月には小林旭さん主演、浅丘ルリ子さんがヒロインを務めた映画「渡り鳥」シリーズ第四弾「赤い夕陽の渡り鳥」が上映され、その撮影がスカイラインで行われました。開通当時は道路の大部分が一車線砂利道で土埃を巻き上げていましたが、昭和三十六（一九六二）年九月六日に昭和天皇の御視

察を契機に防塵処理が始まりました。また、映画の撮られた同じ年の十二月には福島市出身の作曲家・古関裕而氏作曲で守屋浩さんが歌った「花のスカイライン」というレコードも発売されました。そして昭和四十八（一九七三）年には年間最高交通量二六五、〇九四台に達しました。

昭和六十一（一九八六）年八月十日には、建設省（現在の国土交通省）によって制定された「道の日」を記念して一九八六年と翌年に選定された「日本の道一〇〇選」にも選ばれました。浄土平にある吾妻小富士の登り口には、記念碑が立てられています。東日本大震災後はライダーに大自然を楽しんでいただくための情報収集基地「ライダーズピット」を浄土平に設置し、ツーリングがより楽しめる山岳道路になりました。



昭和天皇陛下視察

スカイラインは、震災後の平成二十三年（二〇一一）年七月か



「まず浄土平天文台の成り立ちからお答えします。四十年ほど前に『星空の招待』という全国的なイベントを開催していきまして、その主催会場が浄土平でした。十年くらい続いたイベントでしたが一度節目を付けて終わらせて、しかしそれを軸に全国に『星まつり』が広がっていききました。その時、浄土平では星まつりは行っていないのですが、せっかく実績もあるし『誰か来ても星を見られる場所を作るべきではないか』という話が入りまして、そこで地元

の福島天文同好会などのメンバーの方々と話し合っ

「最近、ローカル新聞や雑誌等メディアに露出する機会が増えました。そういうもので見たよ、と言ってくれる方が多くなりました。浄土平の星空はとても綺麗なので、見られる機会を作って、ま

「ここは窪地になっているので光が入らない。逆に頂上に行っちゃうと光が届かない、それでも街の明かりが入ってきてしまう時があって：そういう環境問題を考えるのにも天文台の意義があると思っています。天文台の将来としては日本一の地の利を生かして、それにふさわしい施設を作る事。そうすれば自然とお客さんが来るだろうし、

「五、六年位前にはドイツの自然愛好家の方々が東北で



「五、六年位前にはドイツの自然愛好家の方々が東北で

観光に対しても飛躍する。今がチャンスだと思っています。これだけ自然回帰が若い人中でも定着している。アウトドアの楽しみ方も多様化している中で星を見るっていうのも一つのスタイルなので。あとは、日本全国色んな星のスポットがありますけれども、県庁所在地の、新幹線停車駅の市内から一時間弱で上がって来られるという所も利点です。そういったところが生かされてないので将来的には立地条件を活用できればと」

「五、六年位前にはドイツの自然愛好家の方々が東北で

浄土平天文台 豊島直紀台長 インタビュー

Q 天文台の役割とは？

「まず浄土平天文台の成り立ちからお答えします。四十年ほど前に『星空の招待』という全国的なイベントを開催していきまして、その主催会場が浄土平でした。十年くらい続いたイベントでしたが一度節目を付けて終わらせて、しかしそれを軸に全国に『星まつり』が広がっていききました。その時、浄土平では星まつりは行っていないのですが、せっかく実績もあるし『誰か来ても星を見られる場所を作るべきではないか』という話が入りまして、そこで地元

「ここは窪地になっているので光が入らない。逆に頂上に行っちゃうと光が届かない、それでも街の明かりが入ってきてしまう時があって：そういう環境問題を考えるのにも天文台の意義があると思っています。天文台の将来としては日本一の地の利を生かして、それにふさわしい施設を作る事。そうすれば自然とお客さんが来るだろうし、

高いところにあるってことはそれだけ地上の光も入って来ないですよ



「ビクターセンターのコンセプトが『天空の自然トレッキング変わりゆく大地を楽しむ』というもので、大きなテーマを四つに分けて作っています。まずは浄土平周辺の事、一切経山の事、鎌沼のコースの事、あとは湿原関係。この四つのテーマに基づいた展示で紹介をしています。ビクターセンターは情報提供の場だと思っていますので、市内外から初めて来た方に色々知っていただければ。この利用者は観光客の方と登山客が半々くらいになるんですよね。震災後通行無料になった事も大きいですね」

「この施設は午前九時から午後四時までですが、職員が午前八時十分ごろまでには上がってきます。トイレが二カ所（つばくろ谷と酸力平）ありますが、その掃除もしながら上がってきて、あとレストハウスが開けばそのトイレも掃除して、場内のゴミ拾い。後は班長の指示で木道の



高山植物 ネモトシヤクナゲ

「私は猪苗代町の出身なんです。が、県庁所在地でありながら活気が足りないかな、と。ただ、人々はのんびりしてますよね。若い人たちもお年よりも総じておっとりしているように見えます。あと自然環境は良いと思います。観光地化されている自然公園とは違って浄土平は山の荒々しさとかも残っている。それが新幹線停車駅から車で一時間とかからないで見れるっていうのも魅力ですね」

「私どもの考えでは、自然を手つかずのまま後世に残したいっていうのが正直な気持ちではあります。それは私どもだけでできる問題ではなくて、山岳会の方々や各団体の方にもお願いして人材育成をしたいんです。そうしたうえで自然を守っていききたい。その橋渡しをビクターセンターでやりたいなと思っています」

「まずルールを守ってほしい。ここは特別保護区なので、入ってほしくない所にはロープを張ったりしているのですが、例えば写真を撮りたいって方が踏み込んでしまつて、そこに苔があつて踏みつぶしてしまつたとしてたその苔は一年二年じゃ再生しないんですよ。そういう貴重なものが多いのでルールだけは守ってほしいですね。最近はSNSで映えるような写真を撮りたいって方も多いですが『大事なものを壊してほしくないです。皆さんの財産なんだって意識をもっと持つてほしいです。』

Q 皆様に伝えたいことなどがありますか



高山植物 イワカガミ

修理とか草刈りとか。一日こんな形で動いています。主に環境美化ですね」

Q 福島市の印象を教えてください

スカイラインとビクターセンターは密接したものだと思っていますが、行楽シーズンでお客様が増えたりすると当然ビクターセンターにも影響は大きいですが

し発信する手段を考えていかなければと思います」

磐梯吾妻スカイライン® 浄土平周辺散策マップ

浄土平駐車場からの おすすめ散策コース

A 桶沼散策コース(片道約30分)

浄土平湿原の木道をとって桶沼まで散策できます。

B 吾妻小富士登頂コース(片道約20分)

火口を1周するとさらに約1時間ほどかかります。

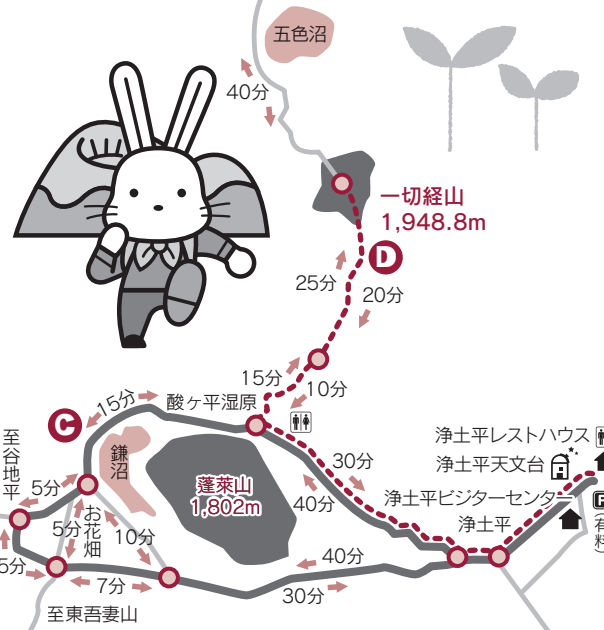
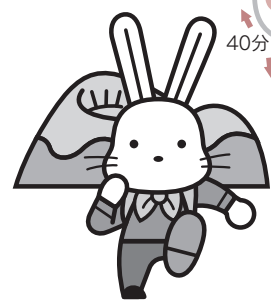
C 鎌沼散策コース(片道約55分)

かわいらしい高山植物をたくさん見ることができます。

D 一切経山登頂コース(片道約1時間20分)

山頂からの眺めは絶景。登山道ですので、適した格好で登頂ください。

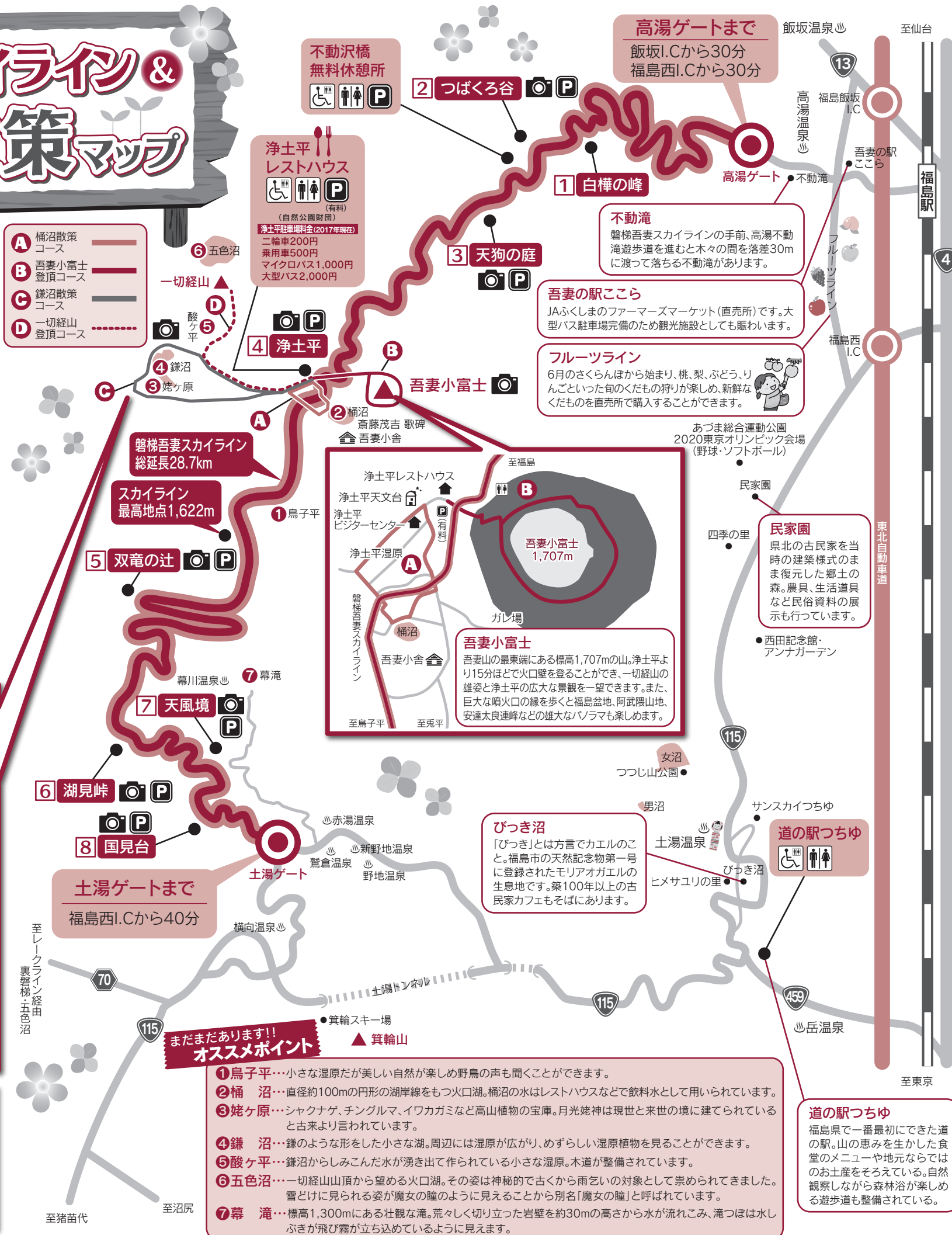
※噴気の影響により立入禁止区域がありますので、ご注意ください。



斎藤茂吉の歌碑

桶沼畔には、大正5年に吾妻山を訪れた茂吉が宿泊先の高湯温泉で詠んだ歌が刻まれている歌碑があります。雄大な吾妻山の景色を切り取った歌で、高湯では雨に降られながらも、愉快的滞在をしたことが伺えます。

五日ふりし
雨はるるらし山腹の
吾妻のさぎり
天のぼりみゆ



吾妻八景

磐梯吾妻スカイラインは、昭和34年11月5日に開通しました。「吾妻八景」はそれに先立つ10月に福島民報社が選定し、作家・井上靖氏が命名したものです。

① 白樺の峰

白樺(正式にはダケカンパ)を主とした樹海が広がり左右には蔵王、安達太良の連峰が展望できます。また眼下には福島盆地の彼方に霊山が見えます。



② つばくろ谷(不動沢橋)

かつてイワツバメが飛び交ったことから名づけられた渓谷。
開通当時は日本一の高所に架けられたコンクリート橋で、橋から眺める紅葉は圧巻です。
(橋長:170m 橋下:約84m)



③ 天狗の庭

大きな岩が点在し天狗が舞い遊んだという言い伝えにちなんだ景勝地で斜面に美しい紅葉が広がる絶景地です。



4 浄土平

一切経山と吾妻小富士に挟まれた湿地帯で付近は高山植物の宝庫。ここを起点に吾妻小富士、一切経山、鎌沼、桶沼等へ散策が楽しめます。



5 双竜の辻

右に磐梯、左に安達太良の秀峰を展望し、ふたつの峰を空で対峙する龍に見立てて命名されました。



6 湖見峠

磐梯山を囲むように左から猪苗代湖・秋元湖・小野川湖・桧原湖の4つの湖を遠望できます。



7 天風境

紅葉の頃は、ブナの樹海の鮮やかな色彩と一筋の白布のような幕ノ滝が絶妙で一幅の絵を思わせます。



8 国見台

会津盆地が遠望され井上靖氏が落日時の景観を見て「壮麗な幻想交響詩のフィナーレを奏でるようだ」と称えた場所です。

